

平成29年7月25日

東京電力ホールディングス株式会社

会長 川村 隆 様

副会長 廣瀬 直己 様

社長 小早川 智明 様

柏崎市長 櫻井 雅浩

貴社所有 柏崎刈羽原子力発電所6号機、7号機の再稼働を巡る「条件」について

私は昨年柏崎市長選挙立候補の予定段階から、再稼働の価値は認める、ただし条件を付与してのものである、と申し上げてきました。その条件が100%達成される段階での容認、というわけでないが、またゼロ回答では再稼働を認めるものではない、と一貫して申し上げてきました。

さて、その条件となり得るものは2つの要素を満たすことである、と申し上げてきました。

1つは、地域に安全と安心がより一層担保される。もう1つは、地域に豊かさを導くもの、経済的効果がもたらされるもの、ということです。

この2つの要素を満たすものを順次「条件」として挙げていく、と申し述べてきました。

立候補当時から、報道陣より「例えば具体的にどのようなものか？」とのお尋ねが再三ありましたので1つ挙げておきました。

「実効性ある避難計画を担保させるため、避難道路などの整備、改良、また冬期間の除雪体制確立のための財源措置」というものです。これは主に国に対しての条件の付与です。

12月6日から市長職を拝命しました。12月15日には福島第一原子力発電所を、翌16日には柏崎刈羽原子力発電所を視察いたしました。その時の感想は初めての議会にあたっての「所信」に書き連ねました。ご覧ください。

米山新潟県知事とも率直な意見交換を重ね、私の立場は「条件を付与しながらも6号機、7号機の再稼働を認めるものである」と表明してまいりました。もちろん、国の原子力規制委員会が審査を終え、合格の印が押されたらばという前提です。

知事は一貫して「検証が済むまでは再稼働論議は認められない」という立場でした。その後、「検証に3、4年はかかる」言葉が繋がっていきました。

それでも「地域の会」への参加要請をお受けいただき、市民の皆様との率直な意見交換の場にご出席いただきました。資源エネルギー庁多田次長、御社広瀬社長（当時）、刈羽村村長もご一緒です。懇親会の場においてもそれぞれの立場の違いはあれ、信頼を積み重ねていくための最初の、そして大切なステップを切り始めたと思い、心から喜んでおりました。2月1日のことです。

しかるに2月14日、原子力規制委員会にて「免震重要棟の問題」が出てまいりました。私はそこでの「言葉遣い」「データの表しかた」に御社の「体質」を再び見出ししました。

かつてのデータ改ざんや福島事故におけるメルトダウンの認識と公表の仕方を含め「スリーアウトチェンジ」に近いと申し上げました。

また相前後して、北朝鮮によるミサイル発射などの問題が急速に顕在化してまいりました。市民の皆様の中においても「原発は大丈夫か」という素朴な、そして根本的な不安が多く聞かれるようになりました。

同時に市長拝命後、県内各市町村の複数名の首長さんから「福島の事故を思い返すとき、北朝鮮のことを考えたとき、リスクを考えれば7つの原発は多すぎる」という声が届き始めました。

そういった中で1月下旬、国会議員「原発ゼロの会」の皆様がお越しになり、ダイアログがありました。その中で私が施政方針に書いた「アヴァンギャルド」という言葉について質問があり、私の考え方を申し述べたことがその後の報道につながりました。是非私の施政方針をご覧ください。条件という言葉を用いてはおりませんが同様の意味を表明しております。

つまり、6号機7号機の再稼働は認めるが、その条件の1つとして御社に対して『1号機から5号機の廃炉計画を2年以内に出してもらいたい』というものを挙げたのです。そして、「私の頭の中に7つ全ての原発が動くことは想定していない」と申し上げました。

①御社の体質への強い疑念、②北朝鮮を巡る新たな要因、③近隣自治体を含む住民が抱く7つの集中リスク、そして④、2年以内と申し上げたのは米山知事が仰るところの『検証に3、4年かかる』という言葉がコンクリートされ始め、柏崎市民、敢えて申し上げれば原発に関わっていらっしゃる企業の方々に対しても指針、目途の1つを提示する必要があると考えた、というのが理由です。4つです。

今現在は原子力規制委員会が審査を続けている最中ですので、もちろん御社から再稼働の要請もありません。今後あったとしても知事のご発言が「3、4年」でコンクリートされ始めた以上、柏崎刈羽の原発の状態は何も変わらない、何の方向性も見えないということが続きます。そのことは柏崎にとって全く望むものではありません。幸いなことではありません。どちらの方向へ進むのか、何に糧を求めるのか、さらに言えば何に矜持を見い出すべきなのか分からない状態が継続することとなります。私はそのことを見逃すことは柏崎市長としての責任を放棄することに等しいと考えております。

御社におかれましては、柏崎が東京電力というリーディングカンパニーと共に築き上げてきた今までのアプローチでは、つまり「合理」、経済という世界だけではその目的、頂きに到達できない時代であることに気づいていらっしゃるものと拝察しております。クオンティティの時代からクオリティの時代へ、合理と非合理との結合の時代へと移り変わっているように思います。良し悪しではありません。事実です。私はそのことを「アヴァンギャルド」と表現しました。

再稼働と廃炉計画の明示です。「安全・安心」とは合理と非合理の結合であります。御社にとっても私ども柏崎にとっても経済的合理性、社会的充足感に資するものであると確信しております。御社におかれましては新しいアプローチで、今までよりもより多くの柏崎市民とともに原子力発電と付き合っていく、という覚悟をお示しいただきたいと思っております。

私は柏崎市長として御社と新たな信頼関係を構築してまいりたいと考えております。

今年は、イギリスがEUから離脱することを決定いたしました。アメリカ合衆国では大方の予想を覆し、トランプ氏の大統領就任が目前です。実にダイナミックな政治です。単純に、イギリス、アメリカという国の厚み、間口の広さに驚き、感嘆するとともに、正直なところ不安をも抱くわけであります。

同時に、日本は漸進主義、徐々に進むという温和な考え方が似合うのではないだろうかとも思うわけです。英語には deregulation という単語があります。de という接頭辞は、否定の意味です。regulation 規制、「規制否定」つまり「規制撤廃」という訳語が近いと思うのです。しかし、日本人は、「規制緩和」と訳しました。霞ヶ関の官僚の知恵でしょうか。私は、官僚を揶揄しているわけではありません。官僚は、日本の象徴であり、日本人の象徴だと思ふのです。

同様な例えとして「公益企業」という言葉があります。アメリカの友人に言わせると「何だ？公益？企業？って」企業というのは株式会社であり、利益を求めるものであり、公益を求めるのは政府や自治体だろう？」ということだそうです。

東京電力を始めとする電力各社は公益企業と日本では呼ばれています。御存じのとおり、今年4月の電力の小売り全面自由化までは営業エリアが保証され、その一方安定供給が求められたわけであります。別の言い方をすれば自由な価格競争が制限され、料金に競争原理は働きにくく、親方日の丸的な体質が作り上げられたと言われています。

5年半前の福島事故の際、「東電の体質」という言葉が多く使われました。もちろん私も東電の免責を容認するつもりはありません。しかし、私には、第一義的に言えばあの事故の責任は国であると思えるのです。そして、更に言うならば、その国、政府を認めてきた私を含む、国民一人一人があの事故の責任を負うべきだと思ふのです。規制撤廃ではなく、規制緩和、公益企業という存在を許し、その存在に安住してきた私たち国民一人一人の意識に原因があるように思えるのです。

先週、12月15日、私は、東京電力福島第一原子力発電所を視察いたしました。改めて事故の大きさを認識しました。いまだ5年9か月前のままの姿を残しているところもございました。多くの工事車両が広いはずの構内を狭く見せるほどに行き交っていました。1号機、2号機の中央制御室では、リアクターの周りの水位が刻々と下がっていくことを 停電で暗い中、鉛筆で書き留めた現場、正に必死の思いでプラントを守ろうとする作業員的意思、心持ちを見てまいりました。

翌16日、柏崎刈羽原子力発電所を視察いたしました。防潮堤、フィルタ付きベントをはじめとするハード面の対応、またブラインド訓練の中で現場で携わる方々の真剣な表情を見せていただきました。一方、暗闇の中で無防備に近いように思えた海岸線の警備などはテロなど人為的な悪意に対して不安を抱いたのも事実です。

事故を引き起こしたのは人知を超えた地震であり、津波ですが、自らが作り上げた技

術を過信し、十分な策を講ずることができなかつたのは人間であり、同時にその技術を守ろうと安全を確保すべく必死に激闘し、取り組んでいるのも人間であります。私は、現場で働く方々の使命感を感じました。誠実さを感じたのかもしれませんが。かなりタイトな感じがある現場の奥に広がる穏やかな海、仰ぎ見る青空は現場の皆さん、そして福島の方々の願い、祈りのように思えました。

施政方針 （平成29年2月24日）一部

私が学んできたことは、26年の間、政治に携わって14年、政治から離れて12年、改めて気づいたことは、やはり「変わらなければならない」ということでした。

多くの栄光と挫折を見てまいりました。たくさんの市民の笑顔と涙を見てまいりました。今後、より多くの栄光と笑顔を求めていくためには、柏崎はパイオニアでなければならず、時にアバンギャルド（前衛）であることさえも求めていかなければならない、と確信したのです。

不安、不確実性、不透明感。雨の日に笑い、意志の力で振り払ってまいります。慎重に、確実に前に進みます。臆することなく、時に果敢に前に進みます。以下、まだまだ十分ではありませんが初めて編成した予算、「少し変わる勇気」をご説明申し上げます。

改めまして、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機、7号機の再稼働問題につきましては、先ほど申し述べた私の基本路線の変更、使用済み核燃料の乾式貯蔵施設の建設と柏崎市使用済み核燃料税の経年累進課税化、1号機から5号機に至る各号機の廃炉計画の明確化また着手、などの可能性を含め、状況を見極めながら今後私の考えを明示してまいりたいと思います。何よりも大切なのは柏崎市民の安全・安心、豊かさの追求だと考えております。